

南予地域の活性化に向けて

～「観光と食文化」で南予振興を～

提 言 書

平成 23 年 4 月

南予振興委員会

 愛媛経済同友会

I はじめに

21 年度において当委員会が提言を行った「南予の第一次産業と観光の振興に向けての提言」については、主に南予の基幹産業である「かんきつ」及び「魚類養殖」の振興策と次世代生産技術の確立などについて触れ、観光の振興については、松山自動車道の宇和島延伸を控え、機運を高めるための予備提言にとどめたところである。

このため、今年度は、南予地域の観光振興という観点から、検討を重ねてきたところであり、その際、特に、豊かな南予の食材に着目し、「観光と食文化」をテーマに掲げ、南予地域の発展を実現するために取り組むことが望ましいと考えられる点についてとりまとめ、以下の事項について提言するものである。

〔提言事項〕

- 1 「観光」分野における八幡浜・大洲圏域と宇和島圏域の協力体制の構築
- 2 「食」を媒体として農業や料飲組合等を含む地域一体となった仕組みづくり
- 3 消費者や観光客が利用するブログや twitter など IT の積極的な活用
- 4 「観光」と「食」を結びつける地域の共通テーマの検討
- 5 仕掛け人・コーディネーター（キーパーソン）となる人材の登用・育成
- 6 外部からの客観的な評価も十分に参考にすること

Ⅱ．南予地域の概況

1．南予圏域の各市町のプロフィール

- ・人口構成を県平均と比較すると、65 歳以上の割合が高く、生産年齢人口（15～64 歳）や就学年齢人口（15 歳未満）の割合が低い
- ・特産品は一次産品及び一次産品加工品が中心で、複数の市町に跨って類似の品目あるが、これらは「集積」と見るべきである
- ・就業構造を全国平均と比較すると、一次産業の比率が高く、二次産業及び三次産業の比率が低い
- ・産業に関しては、工業出荷のうち食料品の割合が高いところが多い

⇒一次産業が地域の基幹（＝経済に与える影響が大きい）といえる

2．人口動態分析

(1)人口

- ・愛媛県は 1985 年以降、漸減傾向が継続しており、なかでも南予は県内で最も減少幅が大きく（社会減・自然減のダブルパンチ）、25 年後には現在の 2/3 以下にまで減少する見込み
- ・市町別では減少スピードが異なるが、概ね三極化（①西予市、③伊方町、②その他）

(2)年齢構成

- ・15～24 歳の高校・大学進学世代の減少（＝域外流出）が大きく、その後の U ターンも少ないため、全国平均に比べて 15～44 歳の割合が低い一方、50 歳以上、特に 65 歳以上の割合が高い
- ・将来は右肩上がりのいびつな構成になる可能性が高い

⇒社会減と少子化が負のスパイラルとなって人口の減少や年齢構成の変化をもたらしている

3．圏域分析

通勤通学による各市町の結びつきの程度の分析より、南予地域は以下の

2つの圏域に分かれてしまっていると推測される

- ・伊方町、八幡浜市、大洲市、内子町、西予市のグループ
- ・宇和島市、鬼北町、松野町、愛南町のグループ

⇒各市町の地理的条件からやむを得ない部分もあるが、これが南予地域の一体感の醸成を損ねている可能性がある（県の観光関連統計もこの2グループで集計されている）

Ⅲ. 期待される取り組み

- ・八幡浜・大洲圏域の強み（相対的に県内＋中国地方からの観光客が比較的多い）と宇和島圏域の強み（相対的に県外からの観光客が比較的多い）が相互補完関係にあると思われる
 - 両圏域を繋ぐ周遊ルートの検討や誘致活動等で協力体制の構築を期待する
- ・地元の一次産品やそれらを使用した地元料理を提供する施設が入り込み観光客数の上位に名を連ねている
 - 入り込み観光客数上位施設の特徴を参考に、料飲組合等とも協力して、地元の人さえも何度も足を運びたいくなるような仕組みづくりが望まれる
- ・観光情報の取得先はインターネットが急増
 - 各市町や観光協会等の公式ホームページだけでなく、ブログやtwitterなど利用者同士の口コミ的な情報が重視される傾向にあることを認識し、これらを活用する施策を講ずることが望ましい
- ・23年度中の松山自動車道宇和島延伸、その際に開催予定の観光振興イベント（仮称）「いよ伊予なんよ！きてみ祭 2012」を活用
 - 今から準備を始め、イベント効果をオール南予で享受できるような協力体制を構築することが望まれる

⇒各種の統計等の分析を踏まえて地域の弱み・強みを把握するとと

もに、消費者（＝観光客）の目線に立ち、消費者が求めているものの、利用するものを適格に導入していくことが望ましい

IV. 「食」を活用した観光振興の事例

(1)飲食店の集積による観光振興における留意点

前提条件：地域の風土や歴史に根ざした食文化をベースとする

- ① 脚光を浴びる前から、既に相応の店舗数があり（既存集積）
- ② その規模は小さいこと（いわゆる“箱モノ”先行ではない）
- ③ 店舗間競争によりレベルが高く（質）
- ④ 店舗により味に個性があること（探索心）
- ⑤ メニューに多様性はあるが、素材あるいはテーマは一つ（インパクト）
- ⑥ 仕掛け人やコーディネーターがいること（キーパーソンの存在）

→喜多方ラーメン、仙台牛タン、宇都宮餃子、八戸屋台村等の調査結果より、共通点を洗い出したもの（湯布院のケースでも⑤⑥は特に重要）

(2)中心市街地の空き店舗を活用する場合の留意点

地域のイメージを明確にし、素材あるいはテーマを絞り込むことも、観光客にインパクトを与える上で重要（参考例：八戸屋台村）

(3)地域資源の評価やターゲット絞り込み時の留意点

外部の人間による客観的な評価も重要（参考例：宇都宮の「購入額日本一」、喜多方の「蔵」、湯布院の「地域食材」など）

⇒総括すれば、各事例に共通する「キーパーソンを中心に、共通したテーマで、地域が一体となり、継続して取り組むこと」が必要である

V. 結び

南予地域には個性あふれる地域資源が豊富に存在するものの、これらの資源を十分活かしきれていないのが実状である。特に、南予地域を代表する地域資源であるかんきつや水産物などの、所謂「食材」は、全国有数の生産量やブランド力を誇るものであり、これらの食材をいかに活用していくかが、今後の南予地域発展の鍵を握るものとする。そして、本提言は、この食材

を核とした観光振興にどう取り組むべきかを示したものであるが、大切なことは、地域の人たちがその地域の食の歴史や文化、風土が観光資源として価値があるということを発見又は再認識するとともに、観光産業にしっかりと取り込んでいくことである。今後、南予地域全体が一体となって、「食」を切り口とした観光振興に、一步一步取り組んでいかれることを期待するものである。

参考資料

宇和島市の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
87,018人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 30.5%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 57.5%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 12.0%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- みかん
- 鯛、ハマチ、真珠
- ふくめん、さつま汁、鯛そうめん、鯛飯
- かまぼこ、じゃこ天



写真：宇和島市HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 20.2% ＜全国 4.8% ▼＞
第2次産業 16.1% ＜全国26.1% ▼＞
第3次産業 63.0% ＜全国67.2% ▼＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
356億円(05年)⇒ ▼ 352億円(07年)
①食料品 30.6%
②衣服 19.2% ③飲料・たばこ 17.8%
- 小売業年間販売額（商業統計）
916.1億円(04年)⇒ ▼ 847億円(07年)

八幡浜市の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
39,499人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 31.7%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 57.0%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 11.2%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- みかん、宮内いよかん、デコポン等
- 富士柿
- 水産練り製品
（かまごこ、じゃこ天ぷら、ちくわ等）
- 川亀酒造、梅美人酒造、桐万長酒造



写真：八幡浜市HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 21.1% ＜全国 4.8% ▼＞
第2次産業 21.4% ＜全国26.1% ▼＞
第3次産業 57.3% ＜全国67.2% ▼＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
341億円(05年)⇒ ▼ 348億円(07年)
①食料品 53.5%
②輸送用機械 19.7% ③木材 7.3%
- 小売業年間販売額（商業統計）
374.8億円(04年)⇒ ▼ 345.2億円(07年)

大洲市の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
48,811人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 29.1%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 57.9%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 13.0%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- 高張提灯
- 水産加工品（アユ・かじか・川ガニ）
- 練り物・佃煮
- たけのこ、栗、しいたけ
- トマト



写真：大洲市HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 14.3% ＜全国 4.8% ▶＞
第2次産業 25.0% ＜全国26.1% ▶＞
第3次産業 59.6% ＜全国67.2% ▶＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
558億円（05年）⇒ ▼ 508億円（07年）
①食料品 21.4%
②木材 13.9% ③プラスチック 8.6%
- 小売業年間販売額（商業統計）
530.5億円（04年）⇒ ▼ 511.1億円（07年）

西予市の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
43,586人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 36.0%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 53.0%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 11.0%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- タルト
- 栗の渋皮煮
- 茶



写真：どんぶり館HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 22.7% ＜全国 4.8% ▶＞
第2次産業 21.2% ＜全国26.1% ▶＞
第3次産業 56.0% ＜全国67.2% ▶＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
220億円（05年）⇒ ▼ 217億円（07年）
①食料品 25.3%
②窯業・土石 18.3% ③木材 11.4%
- 小売業年間販売額（商業統計）
353.7億円（04年）⇒ ▼ 338億円（07年）

内子町の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
19,066人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 33.4%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 54.9%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 11.7%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- たらいうどん
- ソーセージ
- ぶどう、もも、生しいたけ
- 果、梨
- コスモス



写真：内子町HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 23.4% ＜全国 4.8% ♫＞
第2次産業 27.9% ＜全国26.1% ♫＞
第3次産業 48.6% ＜全国67.2% ♫＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
155億円(05年) ⇒ ♫ 147億円(07年)
①一般機械 20.4% ②食料品 20.0% ③金属 3.2%
- 小売業年間販売額（商業統計）
121.3億円(04年) ⇒ ♫ 110.7億円(07年)

伊方町の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
11,710人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
65歳以上 38.3%＜愛媛県26.0%＞
15～64歳 52.2%＜愛媛県61.0%＞
15歳未満 9.4%＜愛媛県13.0%＞



特産品

- 清見タンゴール
- サンプルーツ
- 岬あじ、岬さば、岬伊勢海老



就業者数



- 2005年国税調査ベース
第1次産業 35.9% ＜全国 4.8% ♫＞
第2次産業 20.4% ＜全国26.1% ♫＞
第3次産業 43.7% ＜全国67.2% ♫＞

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
22億円(05年) ⇒ ♫ 26億円(07年)
①食料品 72.4% ②衣服 13.3%
- 小売業年間販売額（商業統計）
39.2億円(04年) ⇒ ♫ 35.9億円(07年)

写真：西宇和農協、三崎漁業協同組合HP

松野町の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
4,524人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）

65歳以上	36.6%	<愛媛県26.0%>
15～64歳	52.9%	<愛媛県61.0%>
15歳未満	10.6%	<愛媛県13.0%>



特産品

- 天然うなぎ
- あゆ、川がに
- しいたけ、もも
- 茶
- ガラス製品
- 雪漬け



写真：松野町HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース

第1次産業	20.3%	<全国 4.8% ㇿ>
第2次産業	24.5%	<全国26.1% ㇿ>
第3次産業	55.1%	<全国67.2% ㇿ>

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
22億円(05年) ⇒ ㇿ 24億円(07年)
- 小売業年間販売額（商業統計）
18.8億円(04年) ⇒ ㇿ 19.7億円(07年)

鬼北町の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
11,991人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）

65歳以上	36.9%	<愛媛県26.0%>
15～64歳	52.0%	<愛媛県61.0%>
15歳未満	11.1%	<愛媛県13.0%>



特産品

- うこん
- ゆず製品
- やまいも
- 鬼北熟成雉



写真：鬼北町HP

就業者数



- 2005年国税調査ベース

第1次産業	17.7%	<全国 4.8% ㇿ>
第2次産業	24.7%	<全国26.1% ㇿ>
第3次産業	57.5%	<全国67.2% ㇿ>

産業

- 製造品出荷額等（工業統計）
63億円(05年) ⇒ ㇿ 56億円(07年)
 - ①窯業・土石 60.9%
 - ②衣服 10.6%
- 小売業年間販売額（商業統計）
97.4億円(04年) ⇒ ㇿ 106.3億円(07年)

愛南町の概況

人口

- 人口（住民基本台帳人口要覧2010.3）
25,585人
- 人口構成（住民基本台帳人口要覧2010.3）
 - 65歳以上 31.8%＜愛媛県26.0%＞
 - 15～64歳 57.3%＜愛媛県61.0%＞
 - 15歳未満 10.9%＜愛媛県13.0%＞



就業者数



- 2005年国税調査ベース
 - 第1次産業 21.7% ＜全国 4.8% ♫＞
 - 第2次産業 17.0% ＜全国26.1% ♫＞
 - 第3次産業 61.3% ＜全国67.2% ♫＞

産業

特産品

- 真鯛
- 甘夏、ボンカン
- 真珠
- じゃこ天
- 備長炭
- シーボーンアート



- 製造品出荷額等（工業統計）
51億円(05年)⇒ ♫ 46億円(07年)
 - ①食料品 32.1%
 - ②プラスチック 4.2%
- 小売業年間販売額（商業統計）
193.4億円(04年)⇒ ♫186.1億円(07年)

写真：愛南町観光協会HP

南予地域概要の結果

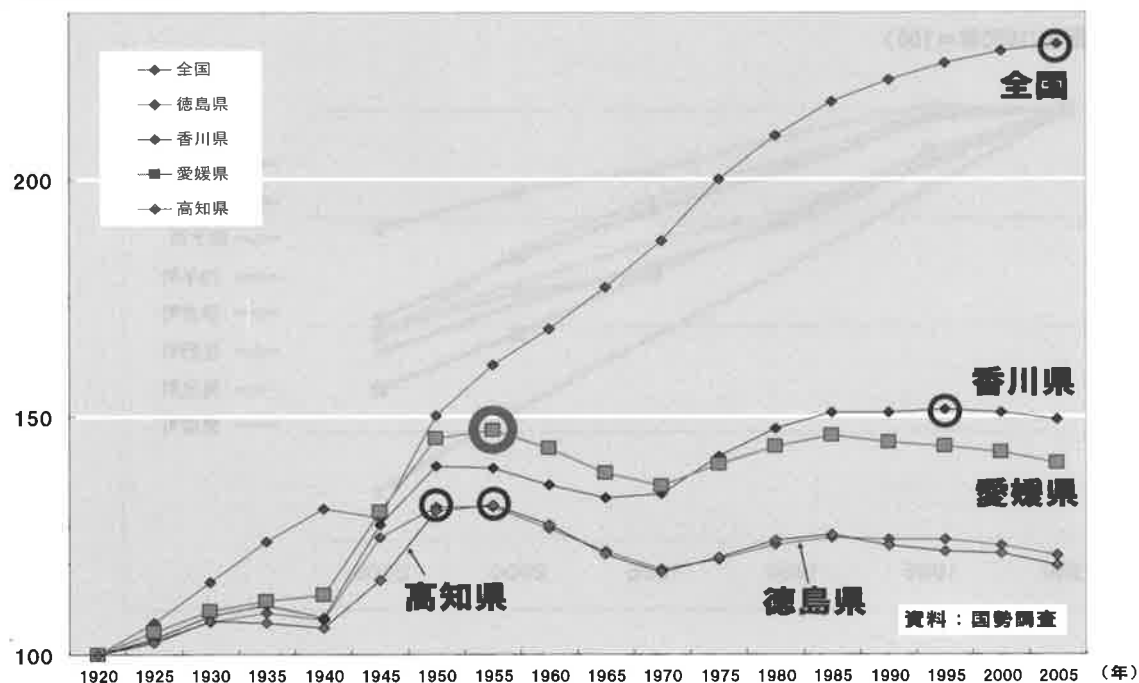
- 人口** **65歳以上の割合が30%以上と県平均より高め**
 ⇔ **生産年齢人口15～64歳（52～57%）、就学年齢人口15歳未満（9～13%）が低め**
- 特産品** **一次産品および一次産品加工品が中心**
市町間で類似の品目あり（集積とみるべき）
- ⇕
- 就業者** **一次産業比率が20%前後と全国平均よりも高い**
 ⇔ **二次産業、三次産業の比率が全国平均よりも5～10%程度低い市町が多い**
- ⇕
- 産業** **工業出荷のうち食料品の割合が高いところが多い**
- ⇒ **一次産業が地域の基幹（経済に与える影響が大きい）**

四国各県の人口動態

四国各県・全国の長期人口推移

資料：国勢調査

指数(1920年=100)

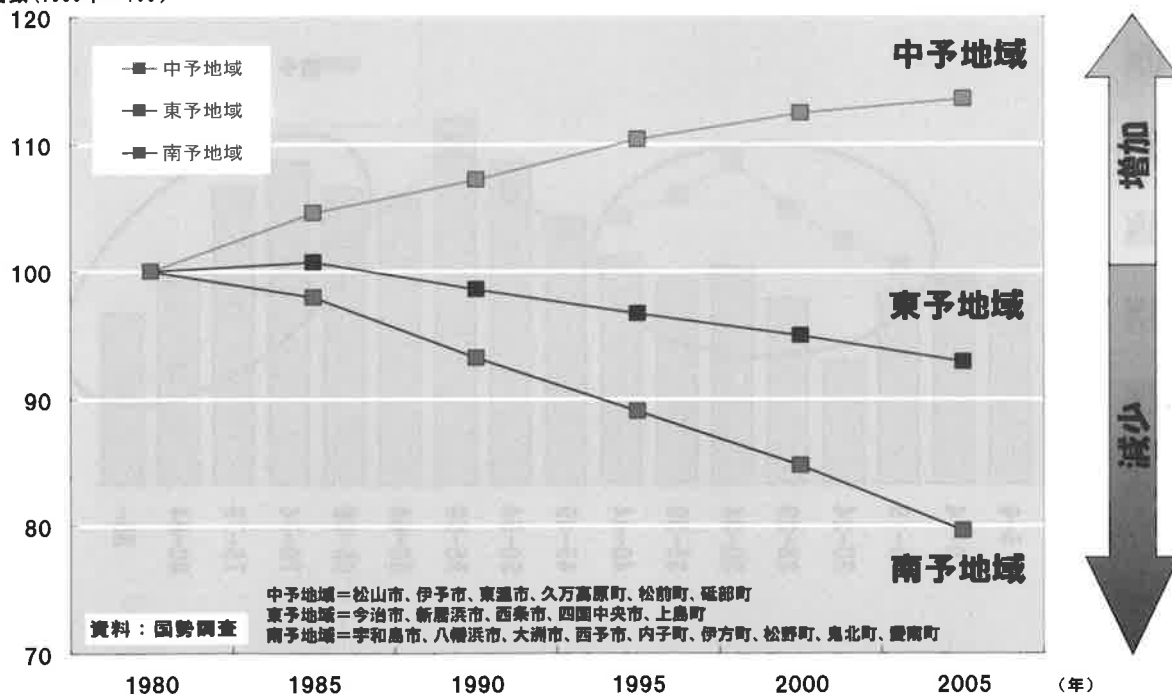


愛媛県内の人口動態

愛媛県内各地域の長期人口推移

資料：国勢調査

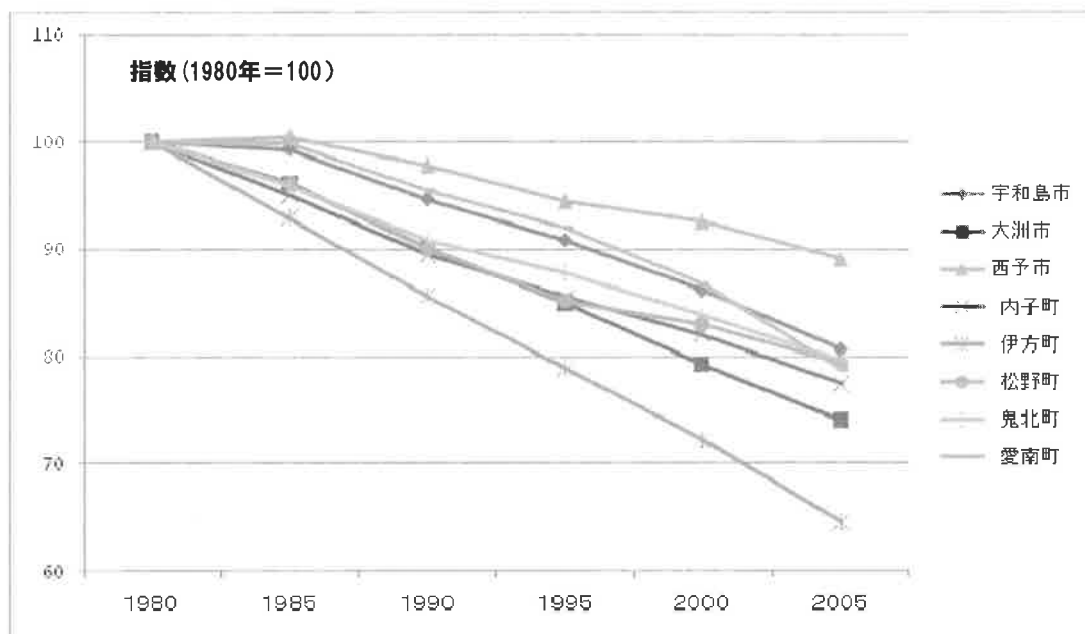
指数(1980年=100)



南予地域構成市町の人口動態

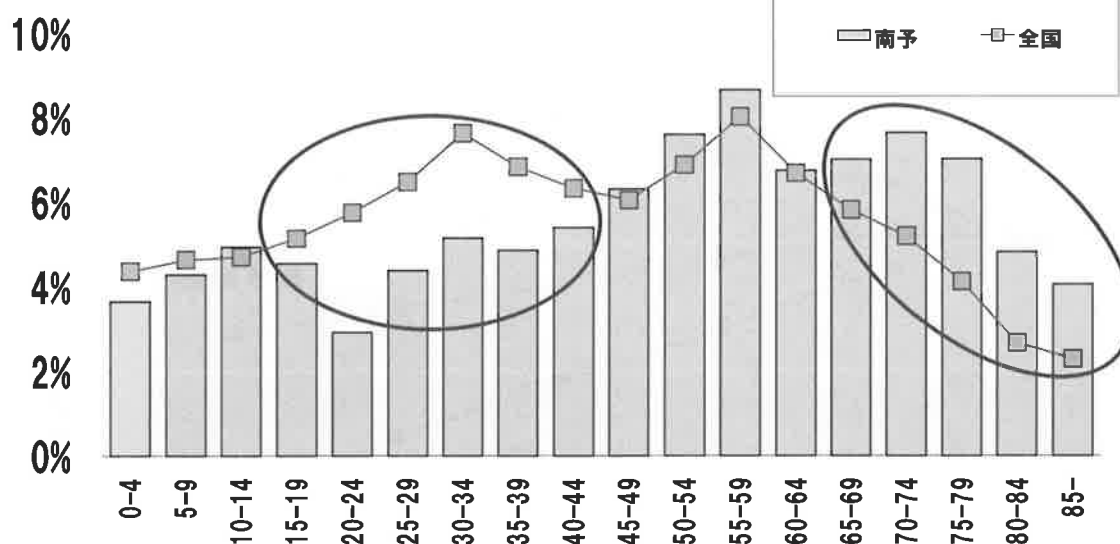
南予地域各市町の長期人口推移

資料：国勢調査



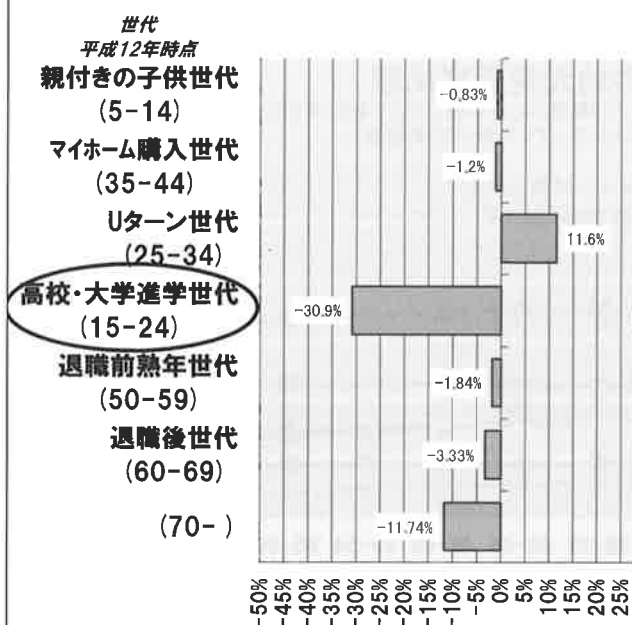
南予地域の人口動態①～年齢構成～

全国との比較 2005年

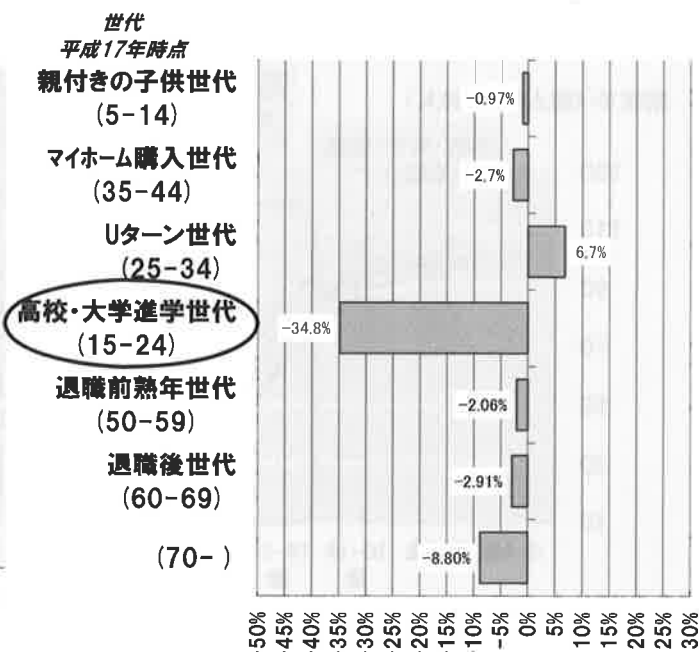


資料：国勢調査

南予地域の人口動態②～世代別増減～



00年の各世代について、95-00年にかけてどの程度の転出入があったかを示したもの。
出典 国勢調査



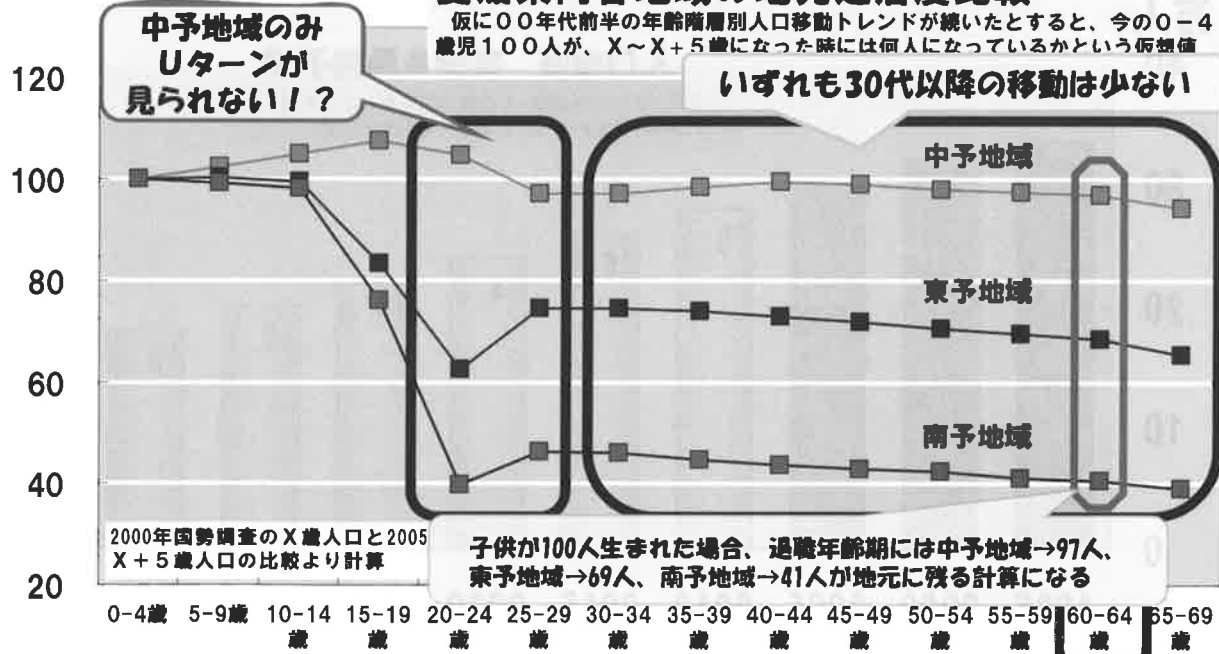
05年の各世代について、00-05年にかけてどの程度の転出入があったかを示したもの。
出典 国勢調査

南予地域住民の地元定着度①

指数 (0-4歳人口=100人)

愛媛県内各地域の地元定着度比較

仮に00年代前半の年齢階層別人口移動トレンドが続いたとすると、今の0-4歳児100人が、X～X+5歳になった時には何人になっているかという仮想値



中予地域=松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町
東予地域=今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町
南予地域=宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町

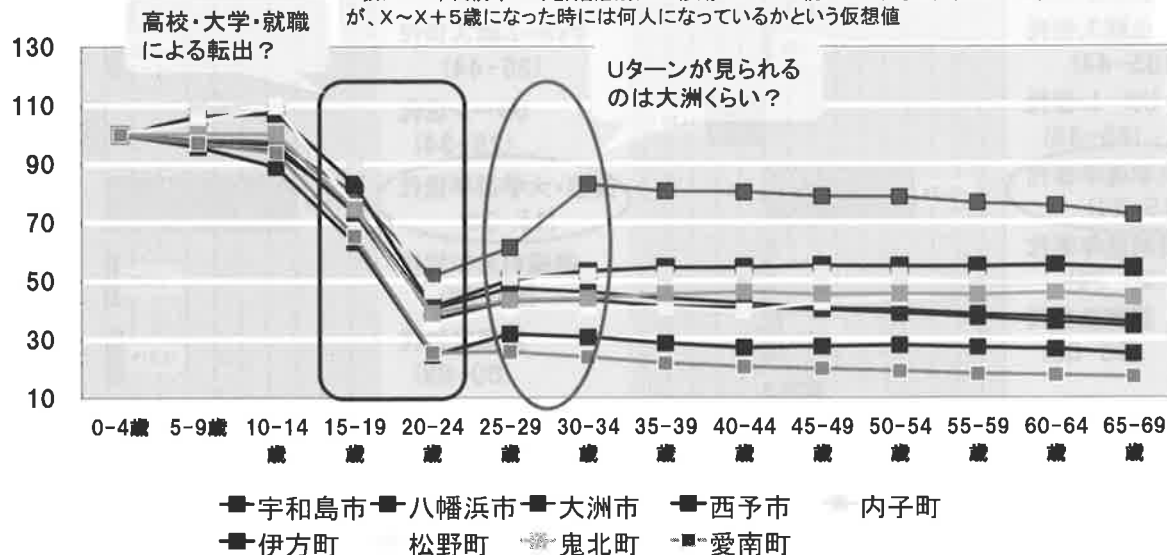
2000年国勢調査のX歳人口と2005年国勢調査のX+5歳人口の比較より計算

南予地域住民の地元定着度②

指数(0-4歳人口=100人)

南予地域構成市町の地元定着度比較

仮に00年代前半の年齢階層別人口移動トレンドが続いたとすると、今の0-4歳児100人が、X~X+5歳になった時には何人になっているかという仮想値



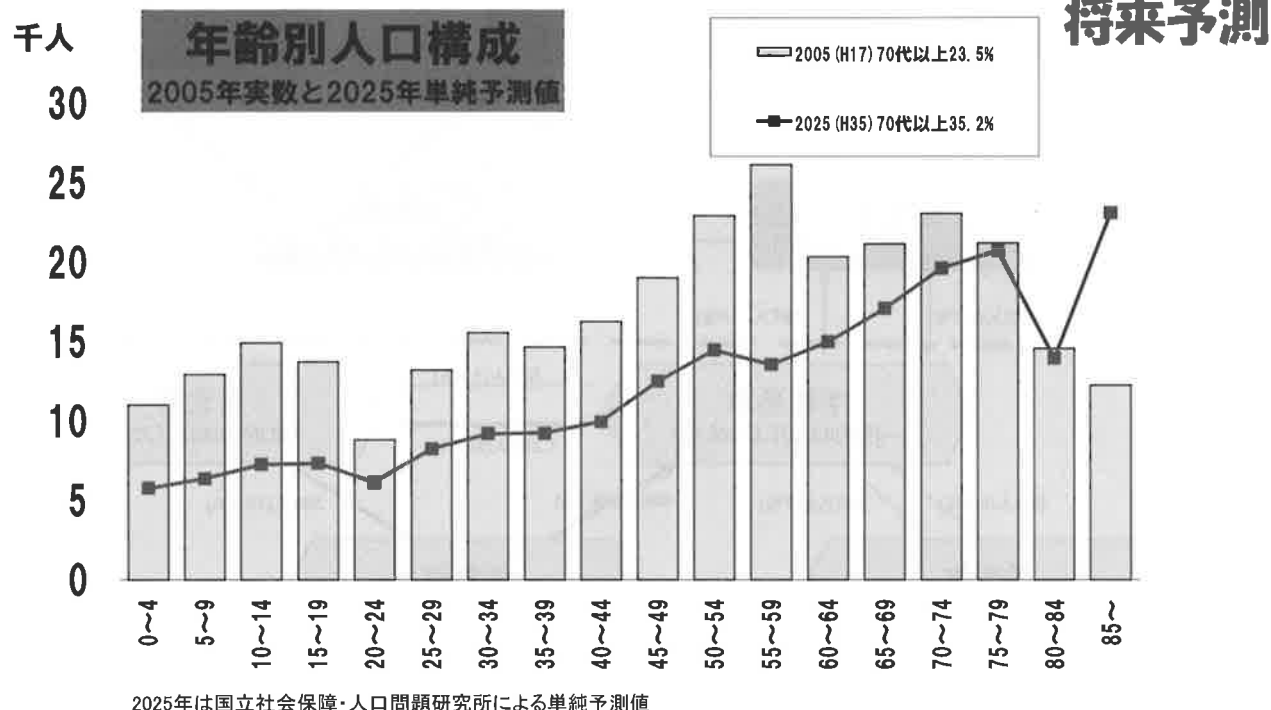
2000年国勢調査のX歳人口と2005年国勢調査のX+5歳人口の比較より計算

南予地域の人口動態③-1~人口増減予測~ (00年代前半の転出入のトレンドが続くと仮定したコーホート予測)

万人



南予地域の人口動態③-2～年齢構成予測～ (00年代前半の転出入のトレンドが続くと仮定したコーホート予測)



人口動態分析の結果

人口

(現状) 愛媛県は1985年以降漸減傾向が継続
南予は県内で最も減少幅が大きい(社会減・自然減のダブルパンチ)

市町別では減少スピードが異なるが、概ね三極化

(将来) 25年後には現在の2/3以下に

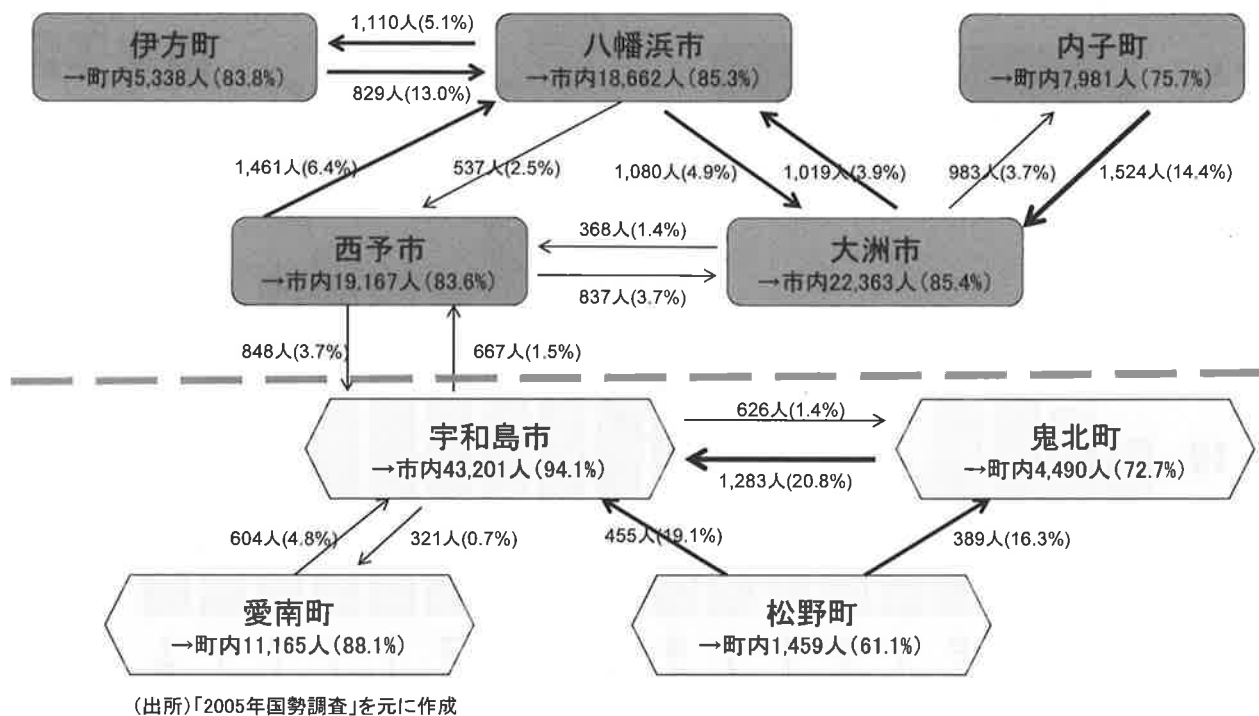
年齢構成

(現状) 全国平均に比べて15～44歳の割合が低い一方、50歳以上、特に65歳以上の割合が高い
原因は15～24歳の高校・大学進学世代の減少が大きく、その後のUターンも少ない

(将来) 右肩上がりのいびつな構成に

⇒社会減と少子化が負のスパイラルに

圏域分析－通勤通学による結びつきの程度－



圏域分析の結果（推測）

通勤通学による結びつきの程度から、南予地域は以下のような圏域に分かれてしまっていると推測される

伊方・八幡浜・大洲・内子・西予のグループ

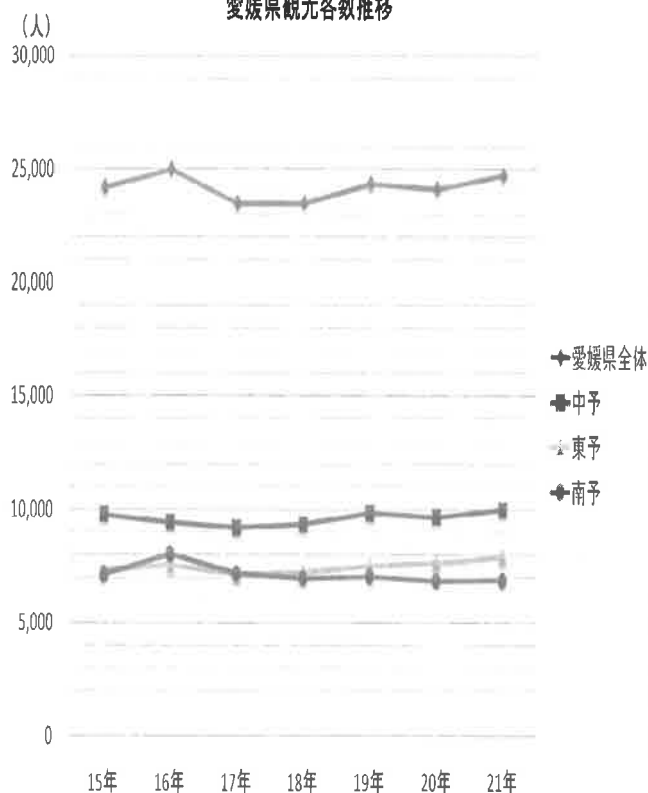
(ただし、さほど強くはないものの、内子・大洲は松山と、西予は宇和島との結びつきあり)

宇和島・鬼北・松野・愛南のグループ

(ただし、愛南は高知県との結びつきが比較的強い)

⇒各市町の地理的条件からやむを得ない部分もあるが、これが南予地域の一体感の醸成を損ねていることはありませんか？
(後述する県の観光調査でもこの圏域別で集計されている)

愛媛県観光客数推移



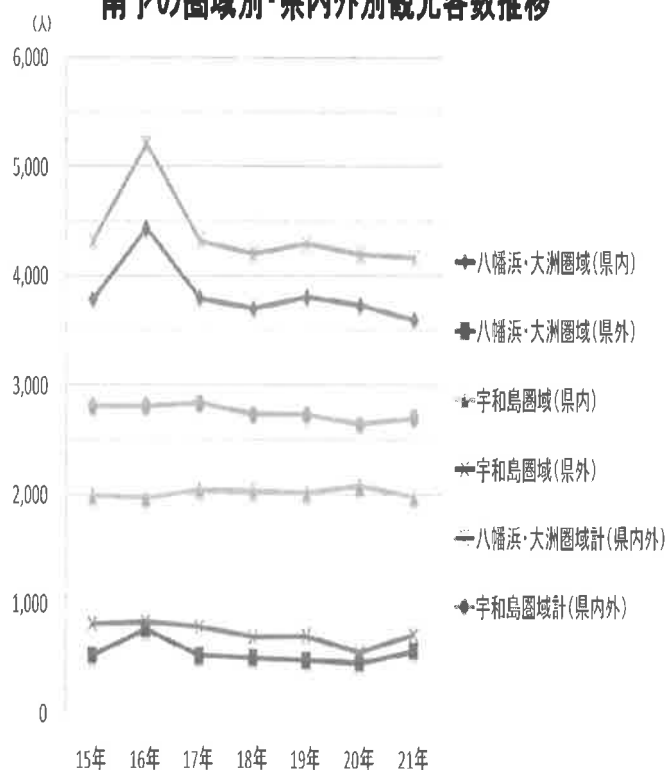
・愛媛県全体では平成18年以降、漸増傾向

・中予、東予も同様の傾向を示しているが、残念ながら、南予だけは横ばい状態

・平成18年頃までは南予は東予と同レベルであったが、平成19年以降、差が徐々に拡大

(出典)愛媛県 観光客数とその消費額(平成18～21年度)

南予の圏域別・県内外別観光客数推移

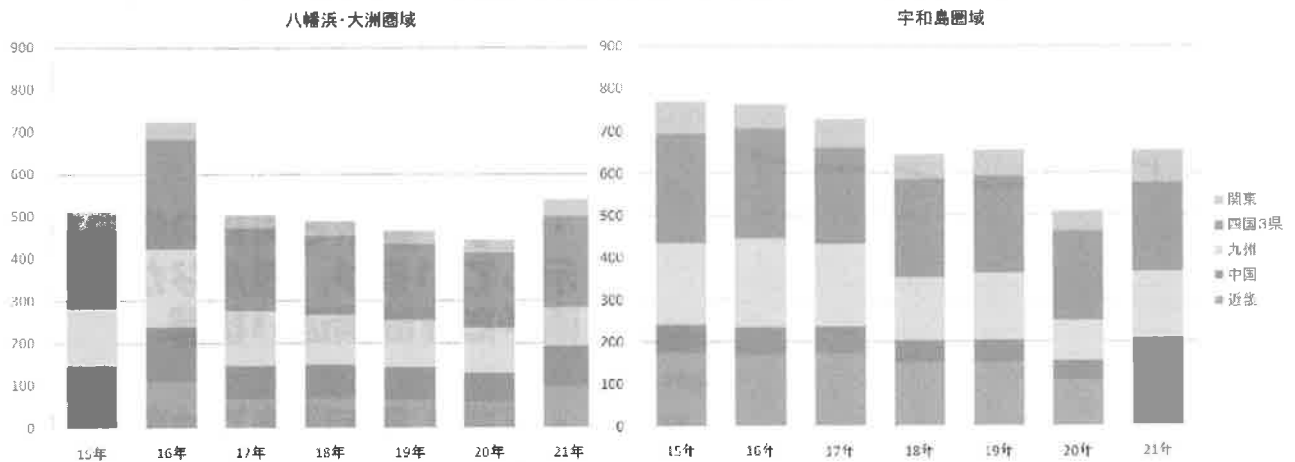


・八幡浜・大洲圏域は、総数では宇和島圏域を大きく上回っているが、内訳を見ると9割近くが県内から

・宇和島圏域の観光客は3割近くが県外からで、実数も八幡浜・大洲圏域への県外客より多い

(出典)愛媛県 観光客数とその消費額(平成18～21年度)

圏域別・出発地別県外観光客数推移



- ・ 1位四国3県、2位九州は共通
- ・ 3位、4位は、八幡浜・大洲圏域では中国→近畿の順、宇和島圏域では近畿→中国の順
- ・ 実数では、中国からの観光客は八幡浜・大洲圏域の方が多いが、その他の地域からの観光客は宇和島圏域の方が多い
- ・ 関東からの観光客も1割弱あり、漸増傾向

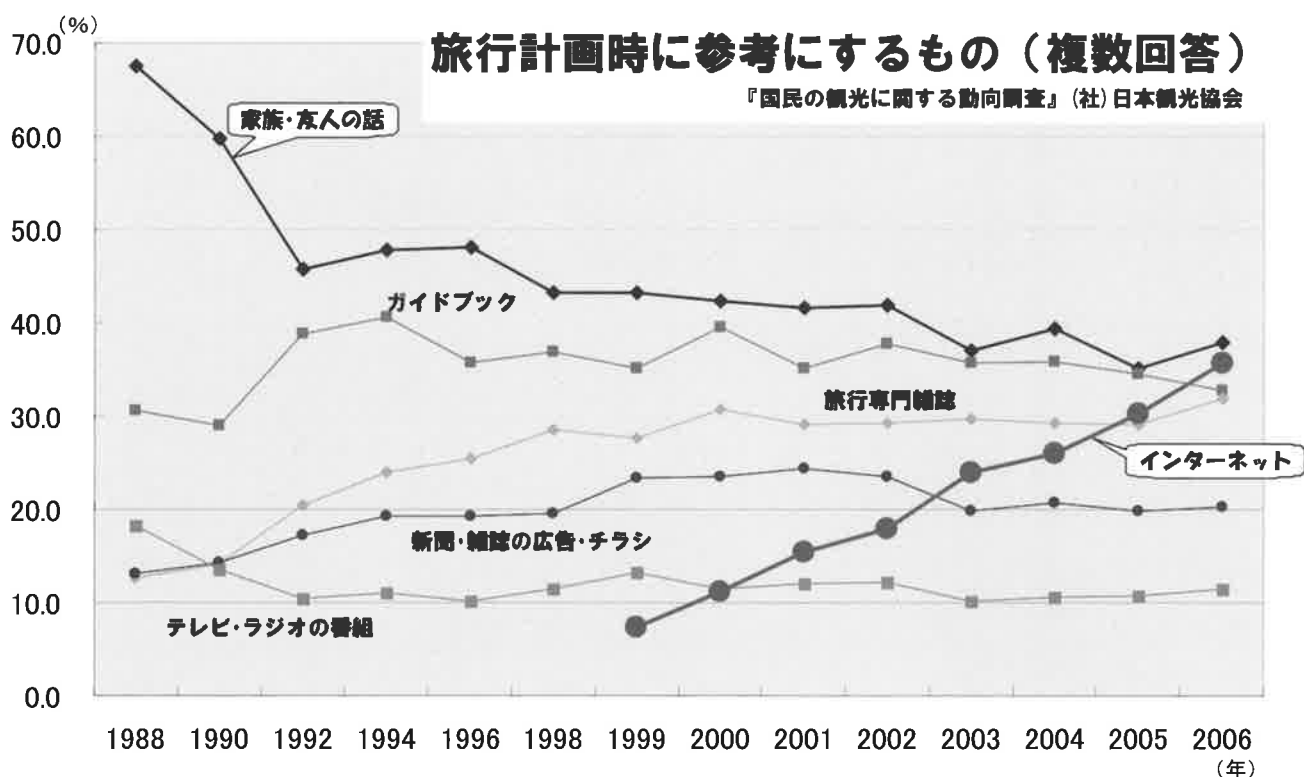
(出典)愛媛県 観光客数とその消費額(平成18～21年度)

南予地域 施設別観光客数 ベスト15

18年		19年		20年		21年		食関係
順位	施設名	順位	施設名	順位	施設名	順位	施設名	
1	東宇和物産会館	みしょうMIC	↑	どんぶり館 (旧東宇和物産会館)	↑	どんぶり館 (旧東宇和物産会館)	↑	
2	みしょうMIC	東宇和物産会館	↓	みしょうMIC	↓	みしょうMIC	↓	
3	虹の森公園	虹の森公園	→	虹の森公園	→	虹の森公園	→	
4	日吉夢産地	日吉夢産地	→	日吉夢産地	→	日吉夢産地	→	
5	津島やすらぎの里	津島やすらぎの里	→	森の三角ぼうし	↑	森の三角ぼうし	→	
6	森の三角ぼうし	森の三角ぼうし	→	津島やすらぎの里	↓	津島やすらぎの里	→	
7	きなはい屋しろかわ	きなはい屋しろかわ	→	きなはい屋しろかわ	→	きなはい屋しろかわ	→	
8	清流の里ひじかわ	清流の里ひじかわ	→	清流の里ひじかわ	→	清流の里ひじかわ	→	
9	フレッシュ本松	フレッシュ本松	→	須ノ川公園	↑	須ノ川公園	→	
10	須ノ川公園	須ノ川公園	→	フレッシュ本松	↓	フレッシュ本松	→	
11	宝泉坊温泉	宝泉坊温泉	→	宝泉坊温泉	→	宝泉坊温泉	→	
12	遊の里温泉	遊の里温泉	→	遊の里温泉	→	遊の里温泉	→	
13	農業公園	農業公園	→	農業公園	→	農業公園	→	
14	ゆらり内海	愛媛県歴史文化博物館	↑	愛媛県歴史文化博物館	→	愛媛県歴史文化博物館	→	
15	塩風呂はま湯	ゆらり内海	↓	ゆらり内海	→	観光物産センター	↑	

(出典)愛媛県 観光客数とその消費額(平成18～21年度)

旅行を計画する時に何を参考にする？



観光分析の結果

八幡浜・大洲圏域の強み（県内客＋中国地方から）と宇和島圏域の強み（県外客）が相互補完関係にある

⇒周遊ルートの検討や誘致活動等で協力体制の構築を

地元の一次産品やそれらを使用した地元料理を提供する施設が観光客数の上位に名を連ねている

⇒上位施設の特徴を参考に、料飲組合等とも協力して、地元の人さえも何度も足を運びたくなるような仕組みづくりを

観光情報の取得先はインターネットが急増

⇒公式ホームページだけでなく、ブログやtwitterなど利用者同士の口コミ的な情報が重視される傾向

来年度中の松山自動車道宇和島延伸、その際に開催予定の観光振興イベント（仮称）「いよ伊予なんよ！きてみ祭2012」を活用

⇒今から準備を始め、イベント効果はオール南予で享受を